

## 令和2年度第2回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和2年11月24日(火) 午後4時00分～午後5時00分

場 所 恵那市役所西庁舎4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

(1) ICT教育について

出席構成員：恵那市長

(6名) 教育長

教育委員

小坂 喬峰

大畑 雅幸

鎌田 基予子

樋田 千史

西尾 修欣

村松 訓子

事務局：

副教育長

教育委員会事務局長

教育総務課長

学校教育課長

教育研究所長

教育総務課係長(記録)

安藤 一博

長谷川 幸洋

西尾 克子

丸山 頼彦

市川 伸美

古屋 恵子

開会（午後4時00分）

■事務局（西尾教育総務課長） 令和2年度第2回恵那市総合教育会議を開催します。設置要綱第5条に基づき会議を公開し、第6条に基づき議事録も公表します。

## 1. 市長、教育長あいさつ

■市長 こんにちは。本日は第2回の総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。私事ですが、過日の選挙で2期目となりました。引き続きお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。また、鎌田委員がご勇退されるとのことで、2期8年ご活躍いただきありがとうございました。教育委員会委員長をはじめ、総合計画策定委員や男女共同参画の委員もお引き受けいただき、多方面でご活躍をいただきました。私もいろいろな場面で一緒にならせていただく機会があり、非常に聡明で的確なご意見を頂き大変感謝しています。本当にありがとうございました。

選挙の時の話を少しだけ申し上げますと、1期目は「はたらく」「たべる」「くらす」の3本柱で恵那市を元気にしますと言ってまいりましたが、今回2期目にあたり「はたらく」「たべる」「くらす」に「まなぶ」を加えました。この「まなぶ」の中には5つのテーマを設けています。1つ目は、年齢にかかわらず「いつでも学べる」環境を作る。2つ目にコロナ禍の中でも継続して「学び続ける」仕組みをしっかりと作る。また「楽しんで学ぶ」ことも大切だということで、体験を含めて楽しんで学べる場を作ります。

「誰もが学べる」では、すべての人が学び、その喜びを分かち合いたい。最後は「新しい学びの姿」を提案しますということをご公約に入れました。この中の一つとして目標に掲げていることは、今なりの大学を作りたいということです。まだ政策や事業として加えるまではいっていませんが、大きな目標の一つとして考えています。この3月に恵那市と中津川市で高校を卒業された子どもの人数は約1,000人でした。そのうちの約65%が進学され、残り35%の方が就職です。その35%のうち25%が恵那市か中津川市に就職されたということで、約25%の子しか地元に残らないということになります。大学に進学される子は自宅から通学する子もいますが、ほとんどの子どもは通うことが大変なため、市外に出られます。25%しか地元に残らないということは、恵那市もしくは東美濃地域が抱える大きな課題だと考えています。ここを少しでも解消できる対策が、課題解決の一つだと思っています。今年は1月2月からコロナが発生して、3月以降に学校が休みとなりました。4月以降はオンラインでの学習がメインとなり、特に大学もオンラインでの学びがスタンダードになってきました。文部科学省としてはオンラインばかりではなく対面の授業も行うよう指示を出していますが、オンラインでできることはある程度、手ごたえとして見えたはずで、であれば、オンラインをメインにした大学などの出先機関がこの地域にあってもいいのではないかと。1学年に5人でも10人でもいいので、この場所に残って学び続けてくれる子がいてくれたら、学校に進学するための費用も時間も節約できるということを考えると、決して可能性は0ではないと思っています。これから細かい規制やスキーム、制度を考えていきますが、一つの大きな目標として持っていきたいと思っています。このようなことも考

えながら、学ぶというテーマを今回は掲げさせていただきました。ぜひ皆様からもいろいろな場面でご意見を賜ることができればうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。

- 教育長 委員の皆様には、定例会に引き続きの総合教育会議になります。よろしくお願いいたします。本日、レジュメにあるように議題はICT教育1点で、できるだけ話し合いを深めたいと思っています。今日の午前中、定例の校長研修会でICTについて指示、伝達、依頼をしました。恵那市は特に子どもの少人数化と学校の小規模化が進んでいます。来年度、飯地小学校は完全複式学級になり、令和5年度には、中野方小学校と恵那北小学校に、令和6年度には上矢作小学校で複式学級ができます。それに伴い教員定数も減になってくる中で、いかにその部分をフォローしていくかが重要です。市街地の中規模、大規模校で育つ子どもたちに負けない教育をしていく中で、一番有効だと思えるのがICT教育です。ICT教育ではタブレットを今年中に全児童生徒へ配布します。学校の大規模容量の環境整備を終えると、快適な環境でタブレットが利用できるようになります。まず初めに重要なことは子どもたちがタブレットに慣れることです。学校が小さくなくても学校間を超えてオンラインで合同授業ができるようにし、子どもたちを元気にするとともに、学習内容、学習の深まりを追求していきたいと考えています。市街地のある程度規模のある学校は何もしないということではなく、全部の小中学校がどうやってかかわっていくことができるか。それぞれの特性を生かした形で行えないか。例えば、技術・家庭科は恵那西中学校、恵那東中学校ぐらいにしか専門の教員を配置できません。山間地の小さな学校には専門の先生がいないため、オンラインでの合同授業が可能となれば、免外解消の一躍になります。いろいろな側面からすべての学校がかかわれるICT教育を実施していきたいと思っています。また、一人ひとりの児童生徒に力を付けてもらうため、教員のプロジェクトチームを作って、来年度導入するアプリの選定も行っています。あとはタブレットを子どもたちが家に持って帰って、市長さんが言われるように楽しく学ぶことができるか。ある小学校で夏過ぎに子どもたちの実態調査をしたところ、平日でもゲームを行っている時間が平均2時間以上でした。このゲームの2時間をもしアプリでの算数の勉強に切り替えたら、かなりの力がついてきます。ゲームも楽しいけれど、アプリでどんどん勉強が分かってくることも楽しいというふうにしていきたいと思っています。いろいろご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 2. 議題

### (1) ICT教育について

- 学校教育課長 まずは、11月5日に行われた恵那東中学校3年生へのタブレット配布の様子がアミックスコムで放映されましたので、その様子をご覧ください。  
(動画を視聴)
- 学校教育課長 次に、実際にタブレットを使って、子どもたちが活用するアプリを体験していただきます。

(教育研究所長によるアプリ「ロイロノート」「キュビナ」の体験授業を実施)

- 教育研究所長 保護者・児童生徒用 iPad活用ガイドブックについて、資料に基づき説明。このガイドブックは保護者や児童生徒にタブレットの利用について説明をしていくため作成しました。内容は、一人一台タブレットの目的、活用するアプリの紹介、最後に iPad活用のルールを掲載しています。ルールは目的から始まり使い方までとなっています。このルールを基に児童生徒にも説明をし、いずれは保護者にも説明をします。保護者への説明会が終わった段階で家への持ち帰りも考えていきます。
- 教育総務課長 ご意見、ご質問はありませんか。
- 鎌田委員 保護者説明会が終わった時点で、各家庭のWi-Fi環境は整っている状況ですか。
- 学校教育課長 それも併せて保護者説明会でご案内していこうと考えています。以前調査した中では約1割のご家庭がWi-Fi環境がないということでした。保護者説明会の中で紹介しながら斡旋をさせていただき、家庭への持ち帰りができるよう、同時に進めていきます。
- 樋田委員 保護者を学校に集めるということですか。また説明をするのは誰になりますか。教育委員会からはどなたか参加されますか。
- 教育研究所長 実施の方法は各学校にお任せしようと思っています。コロナも増えてきていますので、リモートが使える学校はリモートで行うかもしれません。説明は学校が行います。必要とあれば教育委員会からも説明会に参加します。
- 樋田委員 子どもたちがタブレットを家に持ち帰るとき、保護するためのカバーか何かありますか。
- 教育研究所長 はい。カバーはすべてのタブレットについています。ただし低学年についてはもう少し丈夫で安全なものを探しています。
- 樋田委員 以前、学校で借りた本を入れて帰る図書袋というものがありませんでしたが、そのような安全なものがあるといいと思います。
- 学校教育課長 持ち帰りやすい、またランドセルに入れられるかどうか、どのようなものがあるのか検討中です。
- 樋田委員 一回の充電で何分ぐらい使えますか。
- 教育研究所長 はっきりと把握していませんが、一日は利用できると思います。
- 副教育長 だんだんと劣化はしてきますので、利用できる時間も短くはなります。
- 樋田委員 家で充電できるようアダプターも配布しますか。
- 副教育長 学校では充電できる保管庫がありますので、タブレットに付属されているアダプターとケーブルを子どもに持たせます。
- 鎌田委員 YouTubeも見ることができわけですか。AirDrop等で送信してはいけないということは、できてしまうということですか。
- 教育研究所長 一括で管理できるMDMというシステムがあり、YouTubeも見ることができますが、不適切なサイトやアダルトなサイトは見ることができないよう設定をします。AirDropも先進校を調べてみると写真を撮って送ることもありま

す。AirDropについては、入れないほうがいいのか、それともいろいろな使い方を学んだほうがいいのかという点で迷っています。

- 樋田委員 LINEみたいなものはできますか。
- 教育研究所長 それについてもメールを入れるか入れないか検討中です。
- 樋田委員 チェーンメールみたいなもので、誹謗中傷して、どんどん広がってしまうことがあります。そういうことを絶対させてはいけないと思います。
- 教育研究所長 勝手にアプリが入れられないような管理をします。
- 学校教育課長 最小限のアプリから始め、利用しながらアプリを追加していき、よりよい利用ができればと考えています。
- 西尾委員 実際に学校での運用の仕方は、それぞれの先生の熟知度によって変わってくるため、先生方の扱い方というのはレベルアップをしていただく必要があると思います。授業を想像したときに、タブレットを利用する授業ではタブレットを配布し、終わったら回収する。利用しない授業はそのまま行い、また利用する授業の時に配布するという形を想定していますか。
- 教育研究所長 先日、先進地を視察してきた際は、タブレットは子どもたちそれぞれの引き出しに入れていて、利用する段階で引き出しから出して利用する方法をとっていました。そちらのほうが時間も短くできるのではと思います。
- 西尾委員 各自が持っているということですね。一日が終わったらBoxに戻すやり方ですね。
- 鎌田委員 週単位か月単位で使用していた時間を把握することはできますか。せめて最初のうちは管理できるといいと思います。自分が使っていた時間が明らかに何時間、何十時間でも先生に分かってしまうようにして、管理下にあることを示したほうがいいと思います。
- 樋田委員 先日、授業を見に行った時に、ある子のタブレットの画面が消えてしまったことがありました。その子が何もできなくなったとき、隣の子が教えていました。使っているときに分からなくなってしまった子はいっぱいいると思います。触りながら画面が出たという楽しさ、問題が解けて花丸がもらえたうれしさなど、どの子も使える。配布したときに困るような子がいっぱい出てきたほうがいいのではないのでしょうか。かえって知っているような感じで進めていくと、分からなくなったときに動けなくなってしまう。配布したときに説明はすると思いますが、どんどん問題を出していきながら、どの子が何で躓くのか問題点を把握したほうがよいです。そのためには授業の中で先生一人では大変難しいかもしれませんので、支援員さんもお願ひして、そういったことを最初のうちに行ったほうがいいかもしれません。小さな学校は複数の先生が時間を作って入る。校長、教頭が入るなど、みんなで触れてみる。複数の学校は、複数の先生が入って行うなど。初めに一度困らせたほうがいいかもしれません。
- 西尾委員 今のデモンストレーションを体験して思ったことですが、先生が子どもの顔を見る時間があるのか。先生は自分のタブレットを操作しなくてはいけない、大きなスクリーンや画面で説明をする。子どもたちは子どもたちで自分のタブレットの画面を

見て下を向いている。顔を見るタイミング、時間というものが極端に少なくなってしまうのではないかという危惧があります。

- 村松委員 どちらかというとキュビナはどんどん自分で勉強していく感じで、みんなを使うというものではないですね。
- 教育研究所長 現在、試験的に授業で活用していますが、最初の5分間や最後の練習問題として利用しています。
- 樋田委員 どこで、どう使うかですね。
- 村松委員 例えばグループに1台で、各グループで意見を出し合う。道徳などの学び合いの授業で利用するなど、先生方の有効な使い方ができればと思います。
- 教育総務課長 実際にタブレットを使ってみた感想をお願いします。
- 市長 最初のうちは戸惑いもあると思いますが、しばらくすると日常的に使えるノートや筆箱のような道具の一つとしてなっていくと思います。そうなっていったときに、いかに質の高い教育が提供できるかという点を、学校の先生や教育委員会が考えていかななくてはいけないことです。そう意味では本日、経験していただいたことを少し覚えておいていただき、例えば1カ月や2カ月後に学校ではどういう状況になっているかをご覧くださいと思います。
- 鎌田委員 恵那市はWi-Fi環境のないご家庭への支援ということで、市長さんがおっしゃったとおり、「誰もが学べる」「いつでも学び続けられる」「楽しんで学べる」というところがきちんと担保されているので、本当にありがたいと思います。ICTの格差はまずない、まずみんながタブレットを手にして、学べるという点、スタートラインに早く立てるということは、恵那市は大変恵まれていると思います。しかし、それぞれの家庭の事情を見ると、タブレットを家に持ち帰っても、静かな環境で、自分だけで勉強ができる環境の子がどれだけいるか。いろいろなご家庭があるため、家庭環境の格差はなくなりません。その点は今後の課題になっていくと思いますが、ICTでは解決できないところですので、危惧する点です。
- 樋田委員 子どもたちはスマートフォンを持っているのでしょうか。ガイドブックのルールですが、ここについては、口が酸っぱくなるまで、言わなくてはいけません。モラルの問題になりますし、道徳心につながり、人間性にもつながってきますので、徹底させる。子どもたちの心というものを育てるために、このタブレットを利用してもいいのですが、説明の時に心のある、心が育つような説明をしていかないと、ただ指示をしているだけでは入っていかないと考えますし、その後も大事です。説明してみんな一生懸命頑張っているというアフターケアも大事です。学習して力を付けていかなくてはなりません。先生方も力を付ける必要がありますし、子どもたちも力を付けていかなくてはならない。学力もそうですが、生きる力を付けていかなくてはならないと思いました。
- 西尾委員 行政が子どもたちに与えられる教育というものは、まずはチャンス、機会だと思っています。すべての子どもに、市長さんがおっしゃっている、誰もが、いつでもという機会を作ることが教育行政の第一歩だと思っています。そういう点で市がこういっ

た機材、設備等々をそろえてくださったというのは、恵那市の子どもたちにとっての大きなメリット、幸せなことだと思います。道具ですので、その道具をどう使っていくのが子どもたちのみならず、先生方も一人ひとりに差が出てくるものだと思います。その底上げ、タブレットの操作が不慣れな子どもを一人でも減らしていく、年配の先生方も使いこなせる、子どもに指導できるぐらいの使いこなし方ができるというようなレベルを上げていくということが大切なことだと思います。せっかく大きな予算を投じて整備したものです。有効に利用することが大切なことで、皆さんが心掛けていかなくてははいけないと思います。

- 村松委員 家庭に持ち帰る以上、ルールをしっかりと決めて、管理しなければいけないと思いました。分からないことは触っているうちに覚えていく。比較的と子どもたちは分からないことをすぐ先生に聞くよりも、特にパソコンやタブレットについては、周りの友達に聞いて、教え合って覚えています。そういった学び合いの姿がたくさん見られるような活用法をぜひ先生方に学んでいただき、授業に生かしていただきたいです。
- 教育長 1月13日に、東濃5市の教育長会がありました。ICTの進め方等について情報交換を行いました。家庭に持ち帰らせることを最終目標にしている市は、現時点では恵那市だけです。他市は持ち帰らせるつもりはないと言われた市もありましたし、検討中の市もありました。そういう中で恵那市は子どもたちに力を付けていきたい。ゲーム等で時間を費やしている部分を学習の方に向けたと思っています。私たち教員は若いころ先輩方から教えていただいたことは、学校教育の基本として、教科担任である自分の時間は、チャイムからチャイムまで必ず自分で管理をなさいます。自分の目の届く範囲で活動させなさい。これが指導の基本だと教えていただきました。しかし、家庭でのタブレットの扱いについては、その教えを直接的には実現できなくなります。言い換えれば、保護者の心配事、不安につながります。この不安を解消しなくてははいけません。学級担任、あるいは教科担任が自分の直接目に見えない状況であっても、子どもたちの家での取り扱いの状況が把握できるよう、こまめな情報収集をするなど努力をしていかないと、家庭によって保護者が強く管理をしてしまい、子どもたちが自在に使えなくなってしまいます。現時点では、1割の方はネット環境がないため、環境を整えるのに時間がかかる家庭もあるかもしれません。タブレットを使った宿題を出すことはないと思いますが、自分の弱点克服や、好きなところをどんどん伸ばしていくために、子どもたちに活用してもらいたいです。例えばこのガイドブックも、これはいいです、これははいけません、これはここまで書き出していてもきりがありません。一つには子どもたちがタブレットを家に持ち帰って利用する目的をしっかりと分かっていることと、学級の中での学習集団として守っていかなくてははいけないこと、正しい使い方などモラルをきちんと指導していかなくてははいけません。保護者の声をとらえながら、今、何年生のレベルではこれぐらいの使い方をしているなど、きちんと把握しておかないと批判が出てきます。そうならないように私たちは進めていかなくてははいけません。市内の全小中学校、恵那市の私たちが行っていかなくてはならないことだと思います。どちらにしてもプラスにならなくてははいけません。子どもたちが喜んでそういうこと

をやらなくてはいけない。多分よそ事を考えようとする子は、私たちの目的などが分かっていない。理解されていない。他市の教育長とも話をしましたが、いろいろ対策をとると言っていました。他市の状況にもアンテナを張って、取り締まるのではなく、指導していく、諭していくというところではないかと思っています。

- 教育総務課長 そのほかよろしいですか。ありがとうございました。本日予定しておりました議題につきましては意見交換が終わりましたので、以上で第2回総合教育会議を閉じさせていただきます。

閉会（午後5時00分）